

■児童・生徒の学力の状況

- 「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語、英語の「読むこと、書くこと」の平均正答率が低い。数学では、図形、データの活用分野の正答率が低い。
- 意欲的に授業に取り組む生徒が多い。しかし、学習内容の定着につながっていない生徒がいる。そのため、学力に差が出ている。
- SDGsに関連した課題を見つけようとする主体的な活動が出来るようになりつつある。また、各教科とSDGsの関連を意識している生徒が増えている。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題  
※「読み解く力」の育成を踏まえて

- 情報を正確に聞きとること、読み取ることが苦手な生徒が多い。授業でも、「読み解く力の育成」を重視し、授業改善していく必要がある。
- 文章やグラフ、図から読み取った情報を整理し、自分の考えを言葉で相手に伝えたり、書いたりする活動を充実させることが課題である。
- 学力の定着に差があるため、個別最適な学びの実践が課題である。また、家庭学習を定着させることも課題である。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 急激に変化する社会において、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手として、生き抜くことのできる資質・能力の育成を図る。
- 2030アジェンダへの意識を高めて、問題解決学習、探究学習、協働学習を通して、言語能力、情報活用力、創造力、実践力、コミュニケーション能力を育む。
- 各教科・領域のカリキュラムマネジメントを行い、社会的事象に目を向けさせ、自分の考えを文章に書き表したり、発表したりする活動を重視し、言語活動の充実を図る。
- 調べ学習・体験活動を通して、SDGsの視点で生命・自然・社会・文化・経済・産業の環境や平和や国際理解等に関する問題を自らの問題としてとらえさせ、改善策を練り、実践する力を育む。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において、「学習課題・目標の設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。	○授業では教科書を読む時間を設ける。読んだ内容から考えたこと、学んだことを友達に伝えたり、書いたりし、主体的にout putする活動を取り入れる。	○生徒が個々に課題を見つけ、探求的な学習を通して、自ら学び解決していく力を育成する。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○SDGs教育を小中学校9年間の系統的な学習として取り入れる。SDGsの学習を探求的に行うことで、主体的・協働的に課題を発見し解決する力、論理的に説明する力、コミュニケーションを図りながら合意形成する力の育成を推進する。	○生徒一人一人の興味・関心に応じた探究テーマ、社会的事象と各教科の関連を意識させる。また、SDGsを各教科の学習や総合的な学習の時間に取り入れ、教科横断的な学習を推進する。	○授業内で、意見を共有する場面や、一人一人の生徒に適した課題を配布する場面で、一人一台端末を活用し、個別最適な学びを実現させる。また、ドリルパークを利用し、家庭学習を充実させる。